

ゆきしろみず



「よさこい下北(ひがしどおり来さまいフェスタ2010)」の様子



コンクリート製造設備建設状況



迫力溢れるステージ演舞



蹴り方から地道に基礎練習

主な内容

- 特集 準備工事の状況をお知らせいたします2
- シリーズ第10弾 働く人がよく見える発電所「経理資材グループ」.....3
- 特集 インタビュー-「私、東通村出身です。いま頑張っています!」.....4
日本福祉大学教授 伊勢田 亮さん
- 村民の笑顔6
東通村にフットサルチーム「BEL NATIO」誕生!
- 盛り上がった地域イベント参加報告7
『寒立馬と一緒に尻屋崎』ウォーク東通
ひがしどおり来さまいフェスタ2010
- まさかり半島豆知識「ゆきしろみずミニミニクイズ」.....7
- 読者の声8



東京電力

東通原子力建設準備事務所

Vol **23**
秋号

2010.9.30

準備工事の状況をお知らせいたします

陸上工事

現在、本館建屋周辺整備工事、機械装置基礎工事、水処理装置設置工事を継続しています。また、ろ過水タンク設置工事、コンクリート製造設備新設工事を開始しました。

- 本館建屋周辺整備工事では、原子炉建屋やタービン建屋等の周辺を海拔10mの高さに整地するのにあわせ必要な壁の構築を行っています。
- 機械装置基礎工事では、発電した電気を送電するためのケーブルや発電所で使用する水や蒸気を送る配管を通す地下のダクト等の構築を行っています。
- 水処理装置設置工事では、ろ過水を製造するためのろ過水装置等の据え付けを行っています。
- ろ過水タンク設置工事では、ろ過水を貯蔵するタンクの構築を行っています。
- コンクリート製造設備新設工事では、生コンクリートを製造するためのセメント等の貯蔵設備の建設を行っています。



コンクリート製造設備建設状況

港湾工事

現在、防波堤工事、物揚場工事、敷地護岸工事、港内しゅんせつ工事、冷却水路屋外諸基礎工事を継続しています。

- 防波堤工事では、防波堤の上部構築物の構築等を行っています。
- 物揚場工事では、大型の資機材等を荷揚げするための物揚場および物揚場への連絡路の構築を行っています。
- 敷地護岸工事では、敷地と海との境界となる壁の構築を行っています。
- 港内しゅんせつ工事では、港内の海底の土砂を必要な深さまで取り除く工事を行っています。
- 冷却水路屋外諸基礎工事では、発電に使用した蒸気を冷やした冷却水(取水した海水)を放水する放水路のうち陸域の地下水路の構築を行っています。



港内しゅんせつ工事状況



冷却水路屋外諸基礎工事状況



H22.9月の全景

準備工事

Q & A

Q 東通原子力発電所の専用の港の中に、大型の資機材等の搬入のため大きなクレーンが建設されると聞きましたがどんなクレーンなの。

A 発電所建設に伴い、大型の資機材は船で海上輸送します。船は港湾内の物揚場に着き、そこで船から陸揚げを行います。そのため、1,200tの重量を吊り上げる事が出来るクレーンと、150tの重量を吊り上げるクレーンの2基を建設する予定です。1,200tのクレーンは本格着工後、原子炉圧力容器等の特に大型の資機材を船から陸揚げする等、発電所建設時に使用します。150tのクレーンは、建設時の一般的な資機材の陸揚げと発電所が運転を開始した後も使用済燃料を専用の船に積み込む際等に使用します。



経理資材 グループ

私たち、経理資材グループは、東通原子力発電所の予算管理および出納業務などを担当している経理部門と、物品購買および工事などの契約業務を担当している資材部門で構成されています。

メンバーは総勢5名、年齢層も上は50歳から下は22歳と幅広い構成となっていますが、日々グループ内のコミュニケーションを充実させ、世代間のギャップを物ともせず楽しく仕事を進めています。

当グループは所内の各グループと密接な関わりをもち、予算に関する相談や契約手続き等で各グループの業務支援を行っている、言わば「縁の下の力持ち」的な存在です。

発電所の予算管理や建設工事契約業務など、堅そうなイメージの仕事内容ですが、お金を扱う業務として確実な仕事を行いながらも、所内の諸活動や地域のお祭り・イベント等にも積極的に参加し、協力企業の方々や地域の皆様との交流を通して、感謝の気持ちを大切にしながら、信頼関係を強固にするためにも頑張っています。

本格的な建設工事の着工を控え、当事務所のスローガンである「私たちは地域と共に 安全最優先を合言葉に 世界に誇れる原子力発電所を建設します」という私たちの誓いを常に意識して、真摯な姿勢で仕事を進めていきたいと思っておりますので、今後ともよろしくお願いたします。



私たち、経理資材グループメンバーです



大杉グループマネージャー



協力企業との打合せ



出納業務を行うメンバー



構内駅伝大会への参加



お祭りにも積極的に参加

「私、東通村出身です。
いま頑張っています!」

日本福祉大学教授 伊勢田 亮さん(65歳)

生きることはコミュニケーション。 学生たちへ、教師になる夢と 希望を与えたい!

一度は社会人として働きながら、「学ぶ」ことが大好きで大学へ再入学。小学校の教師を経て、今、大学教授としてハンディのある子どもをどう育てるか、特別支援教育に力を注ぐ人がいます。東通村白糠出身の伊勢田さんです。

「僕は東通村に住んでいたときから勉強が好きでした。でもクラスで3番とか4番。ずっと1番になりたくて、ずっと学び続けてきたのかもしれない」

日本福祉大学子ども発達学部(愛知県知多市)で、一度に150人ももの学生に講義を行う伊勢田さんは、屈託ない笑顔で話しはじめました。

昭和20年満州で生まれた伊勢田さん。父は白糠出身で旧満州国の警察官でした。帰国後は白糠小学校、南部中学校に通いました。

当時、白糠小学校では、全校をあげて学芸会や朗読会に取り組み、作文、詩、俳句などの創作活動も盛んに行われていました。5年生の夏休みには、児童による演劇発表で子どもたちは村内を巡回。「ベニスの商人」で悪役を演じ喝采を浴びた伊勢田さんは、すっかり演劇が好きになりました。このことがのちに障害児教育(特別支援教育)に演劇を取り入れた論文を発表する、きっかけとなったのです。

中学を卒業後は「手に職を」という父の言葉で八戸工業大学第一高等学校、関東短期大学電気工学科へ進み、卒業後はサンヨー電気へ入社するも一年で短



日本福祉大学教授 伊勢田さん

大へ戻り、今度は初等教育科へ入学しました。

とにかく学びたいという一心で、次に東洋大学の夜間部に入学して文学を学び、更に聖徳大学大学院で心理学を学びました。

「教師になるということは単に教育学を学ぶのではなく、人間という大きな枠組みで学んでいかなければ子どもと向き合えない部分があるのです。文学では同じ青森県出身の太宰治を学びました。太宰が理想とした人間像の中に自分を置き換え、自分自身を励ましました。文学は人間を見ている。心理学は



4歳の頃、白糠のお祭りにて



小学1年生の頃、海上保安部救助艇前でお父さんと



中学1年生の頃、クラスメイトと(左から三人目)



身振り手振りでユニークな講義を行う伊勢田教授

細かいところで人間を見ているんです」

その後、埼玉県で教師になり、小学校、中学校で教鞭きょうべんをとり、異動で埼玉大付属養護学校へ。そして、ここで書いた著書が注目を集め、大学教授の道へと進むきっかけになりました。

著書の名は「障害児の遊び・リズム・劇ー遊びから劇へ＝発展段階別遊びの指導」。養護学校の教師をしながら、日々子どもたちと接し教室で実践したことを書いた日本で最初の本は、「知的障害を持つ子どもの発達段階に応じて遊びから劇をすることができるようになるにはどのような指導が必要なのか」、「指導内容をどうすればいいか」など詳細に記述。障害児教育に携わる多くの先生に支持され、ミリオンセラーとなりました。

「私が小学5年生のとき、熱心に演劇指導して下さった先生の影響は大きいですね。東通村のあちこちへ泊まり込み、その地区のおじいさんやおばあさん、そして子どもたちの前で演じた劇や、学校で作った俳句は、今も忘れることはありません」と振り返ります。

いまだ望郷の念さめやらず、物見崎の灯台などふるさとの風景や白糖の我が家の写真を携帯電話のデータフォルダにおさめ、時々眺ながめているという伊勢田さん。

「東通の海、山、川、野原、花、鳥、風、魚とりや自然は、私の心を癒し、たくましく豊かに育ててくれました。子どもの頃、浜にあがったクジラは、近所で分け合い食べましたが、本当においしかった」と話します。

現在研究しているのは「体と表現のつながり」。健全な子どもと同じ動きができない障害のある子どもは、なぜそれができないのか、私たちの動きをどう見ているのか、様々な角度から研究を重ねています。

大学での講義は「難しいことはやさしく、やさしいことは深く、深いことは楽しく」がモットー。

「人間が生きるということは、コミュニケーションをとることです。私は学生たちに、教師になる夢と希望を与えたい。だから講義は常におもしろく。研究者というよりも、あんな先生になりたいといわれる教育者でありたいと思っています。人を育てることは、何より楽しいです。教え子の幸せな顔を見るのが、私のいちばんの幸せなんです」

アクティブでエネルギッシュ。少年のような瞳が、とても眩まぶしく感じられました。



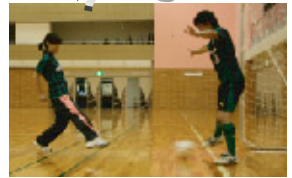
12,000人が学ぶ日本福祉大学美浜キャンパス



なごやかに学生たちと談笑



東通村にフットサルチーム 「BEL NATIO」誕生!



ナイスシュート!

東通村に6月、村内初のフットサルチームが誕生し、笑顔で練習に励んでいます。

東通地域医療センター「野花菖蒲の里」のスタッフにより結成されたもので、チームの名は「BEL NATIO」(ベル ナティオ)。緑豊かな東通村をイメージし、イタリア語で「美しいふるさと」と名付けられました。

結成のきっかけは、今年の冬、東京電力女子サッカー部 マリーゼ(TEPCOマリーゼ)が来村し、小学生に教えている姿を見て感銘。スタッフにサッカーファンも多く「フットサルを通して、心身を鍛え、また、東通村の中心地においてスポーツ文化を創造・発信し、村民の健康増進及び村の文化繁栄に寄与することで、美しい故郷を作る」ことを大きな目標として、東通村診療所の川原田恒先生が代表となり、チームを立ち上げました。

メンバーは、男子5人、女子12人、合わせて17人の混合チーム。年齢は20代から60代までと幅広く、職種も、医師、看護師、理学療法士、事務職と様々。指導にあたっている白糠診療所の石堂哲郎先生以外は、全員初心者です。



蹴り方から地道に基礎練習

7月からスタートしたという練習は、毎週月曜日と木曜日、午後5時半から7時まで。ひとみの里フットサル場と東通中学校体育館、東通村体育館等で行われています。

指導は、学生時代サッカー部に所属していた石堂先生と東京電力サッカー部及び東北電力サッカー部のメンバー。ボールの蹴り方、止め方など基本を習ったあと、楽しみながら自然にルールを覚えようと、試合形式を体験しながら取り組んでいます。



キャプテンの中村陽子さん

キャプテンの中村陽子さんは「夜勤もあるし不規則な仕事なのでメンバーが全員集まるのは大変ですが、気持ちのいい汗

を流すことでストレス発散や運動不足の解消にもなります。また職種の違う人同士が親睦を深めることで仕事への活力になっています」とっこり。

9月には、男子メンバーがデザインした念願のユニホームも完成。グリーンของทีมカラーに、胸のエンブレムは寒立馬。着心地の良さにテンションも上がり、練習にも熱がこもっています。

指導にあたっている石堂先生は「世界で一番盛んなスポーツがサッカーであり、スペースもとらないフットサルは、どこでも気軽にできるスポーツです。普段使わない足を巧みに使うことは、未知の魅力にあふれています」とその素晴らしさを語ってくれました。

将来は「東通地域医療センターのみならず村民にも声をかけてメンバーを増やし、村内でリーグ戦ができる事を願っています」と話していました。



指導にあたる石堂哲郎先生



的確に味方へパスする練習



走り込んでいざシュートへ!!



取材当日に集合した「BEL NATIO」メンバーの皆さん

東通村

『寒立馬と一緒に尻屋崎』ウォーク東通 (平成22年8月8日(日))

8月8日、東通ウォーキングクラブの主催で『寒立馬と一緒に尻屋崎』ウォーク東通」が開催され、当所所員も参加しました。

当日は快晴の青空の下、約60名の参加者は、尻屋崎を1周する約10kmのコースを、太平洋および津軽海峡の大海原や緑の山々、また、時折現れる寒立馬、そびえ立つ灯台などを眺めながら、約2時間掛けて思い思いのペースで歩

きました。

気温30度に近い中ではありましたが、海からの涼風もあり、参加者は心地よい汗を流していました。

今後とも、地域のイベントに参加しながら、地域の方々との交流を深めていきます。



素晴らしい景観尻屋崎



気持ちも心も晴れやか記念写真!

東通村

ひがしどおり来さまいフェスタ2010 (平成22年8月28日(土)来さまい宵祭・8月29日(日)よさこい下北)

東通村における最大のイベントである「ひがしどおり来さまいフェスタ2010」が開催され、当所所員もよさこいチームの一員などで参加しました。

28日の来さまい宵祭では、東通小・中学校吹奏楽合同コンサート、ゲームに勝ってPSPをゲットするゲーム大会などが行われ、ゲーム大会では、当所所員もエネルギークイズの司会として参加しました。また、夜には東京電力と東北電力が主催する鳥羽一郎歌謡ショーが行われ、この日を楽しみにしていた東通村内の方々をはじめとした多くの観客から歓声があがっていました。

29日には、メインイベントであるよさこい踊りが行われ、午前中の流し踊り、午後からのステージ演舞に県内の14チームが参加しました。当所からも東北電力等との合同チーム「風舞翔吹」に12名が

参加し、この日のために重ねてきた練習の成果を生き生きと発揮し、多くの観客から拍手をいただいていた。夜には、大声コンテストやイントロクイズも行われ、2日間とも多くの方が訪れていました。

今後とも、地域イベントに参加しイベントを盛り上げていくとともに、地域の方との交流を図っていきます。



PSPをゲットしようゲーム大会



息ピッタリの流し踊り



迫力溢れるステージ演舞



あの日の思い出がよみがえるイントロクイズ

まさか半島
豆知識

ゆきしろみずクイズ

東通村の名物の一つでもある「そば」。心地良い歯ざわりとさっぱりした喉ごしは絶品。10月には「新そば街道まつり」が開催され、村内各地で新そばを味わうことができます。さて問題ですが、そばの花は1~3の何番でしょうか。
<ヒント>可憐な花が咲き誇ります。



応募方法

答えがわかった方は折込ハガキに解答をご記入のうえ応募ください。正解者の中から抽選でA賞『東通村産品詰め合わせ』またはB賞『東京銘菓詰め合わせ』をそれぞれ5名(合計10名)の方にプレゼントいたします。ご応募は、お1人さま1通を有効とさせていただきます。

●応募締切:平成22年11月30日(火)

当日消印有効

クイズの回答は、次号に掲載します。



夏の答え
ホタテ貝は ② でした! ※応募総数74通のうち72名が正解でした!

個人情報の取り扱いについて

ご記入いただきましたお客様の個人情報は、本広報誌関連の使用を目的とし、第三者に開示・提供することはありません。



VOL22夏号にお寄せいただきました読者の皆さまからのご感想やご意見をご紹介します。

[東通村 Mさん]

4月に神奈川県から引っ越して来ました。東通村のイベントが載っている「ゆきしろみず」を見て少しずつ東通村の地名や伝統などを学んでいます。

東通村の特産品や産業・自然を紹介してもらえると嬉しいです。

[編集室より]

東通村に来られて約5ヶ月が経過しましたが、東通村はいかがですか、慣れましたか？

沢山の自然と人の優しさ、美味しい特産品などなど、数え切れないほどの東通村の素晴らしさ…。私も、もっともっと東通村を知り、皆さんに紹介して行きたいと思っています。

[六ヶ所村 Yさん]

338号の清掃活動お疲れ様です。その前に私達は汚さないように

しなければならぬのではと思います。私は、研修等で東京方面に出かける事がありますが、息苦しくてなりません。六ヶ所村に帰ってくると「ホッと」します。こんなにすばらしい自然に恵まれてほんとうに良かったと思います。皆さんこの自然を守っていきましょう。

[編集室より]

私も、338号の清掃活動に参加しゴミを拾いました。ひとりひとりが、ゴミを捨てないで持ち帰ることで、この美しい自然は永遠と続くのではないのでしょうか。

今後も、微力ながらこの美しい東通村の自然を守るための活動に参加していきたいと思っています。

[六ヶ所村 Kさん]

特集 インタビュー「私、東通村出身です。いま頑張っています！」は、とても良い企画だと思います。

東通村の出身で活躍している人がたくさん居る事が村民の大きな励みとなる事と、郷土を愛する心を育てると思います。今後も楽しみにしています。

[編集室より]

「私、東通村出身です。いま頑張っています！」は今回で3人目のご紹介となりました。これまで、このコーナーに関して多くの皆

さんから賛同の声をいただいていることから、今後も東通村の出身の方で、多方面で活躍している方々を紹介して行きたいと思っています。

[東通村 Nさん]

東通村に住んでいても、なかなか村でのイベント等は知らないもので面白いと思います。

特に、東京の小学生と交流をしている記事が面白かった。

私はそばを作ったり郷土料理を作ることができないので、人に振る舞えるようこれから、覚えていきたいと思っています。

[編集室より]

東京都北区の浮間小学校との交流は、今年で7年目を迎えたそうです。最初は細い枝が段々と太くて大きな「交流の輪」になって来たのではないのでしょうか。

過去の交流会に参加し、高校生になった今でも、お互いが連絡を取り、交流会当日にはOB・OGとして参加してくれる方もいるそうです。これからは電源地域の「電気のふるさと」と電気の消費地域の方々との友情の輪を大切にしていきたいと思います。



お問い合わせ

東京電力株式会社

東通原子力建設準備事務所 広報グループ

〒039-4223 青森県下北郡東通村大字小田野沢字南通2-303
TEL 0175-45-7052・FAX 0175-48-2019
(月～金・平日午前9時～午後5時)

ホームページアドレス

<http://www.tepco.co.jp/nu/hd-np/index-j.html>

「ゆきしろみず」のバックナンバーは上記ホームページで全号見ることができます。

◆誌名「ゆきしろみず」とは、雪どけ水のことをいいます。雪どけ水は静かに大地に流れ入り、浸し、潤します。我々も雪どけ水のように地域に浸透し、一体となっていければという願いが込められています。

編集後記

今年の夏は、下北地方も30℃を超える日が多く続き、とって暑い夏を感じる事ができました。ただ、日本国内をはじめ、世界の国々でもゲリラ豪雨や異常気象の被害が発生し、自然環境が少しずつ変化していると感じています。

さて、これから秋本番、各所で秋祭りのシーズンです、私も、いろいろなお祭りに精力的に参加し楽しみたいと思っています。

また、新そばなど秋の味覚も楽しみです。

担当者 S

